

2x291

日本帝國誌畧

東京圖書館

十四九

新書門

部類函架號冊



七十三	七十三	七十二	七十二	七十一	七十一	七十	六十九	六十九	六十八	六十七	六十六
四	一	五	四	十	十	四	三	一	二	モノ、下詳同	十
遺テ	遺子	擇提	度ノ問	上ノ人		分園	鳥根	城茨	岩城		
					奥州						男合〇〇
遺テ	遺子	擇提	度ノ問	土人	奥州	公園	島根	茨城	岩代		男合數

六十六	六十五	六十三	五十七	五十六	五十五	五十三	四十七	四十六	四十二	三十七	三十四
三	七	八	一	一	十	三	六	二	十	十	二
三大川	堪察加	幹事長	事	破	者	侍	寮	スル	頭	少	スル
		下倒字	ラ	段	ラ	徒	ラ	ラ	助	補	ラ
三大河	カムサツ	幹事長	事	破	者	侍	寮	スル	權頭	少輔	スル
			ヲ	段	ヲ	從	ヲ	ヲ			ヲ

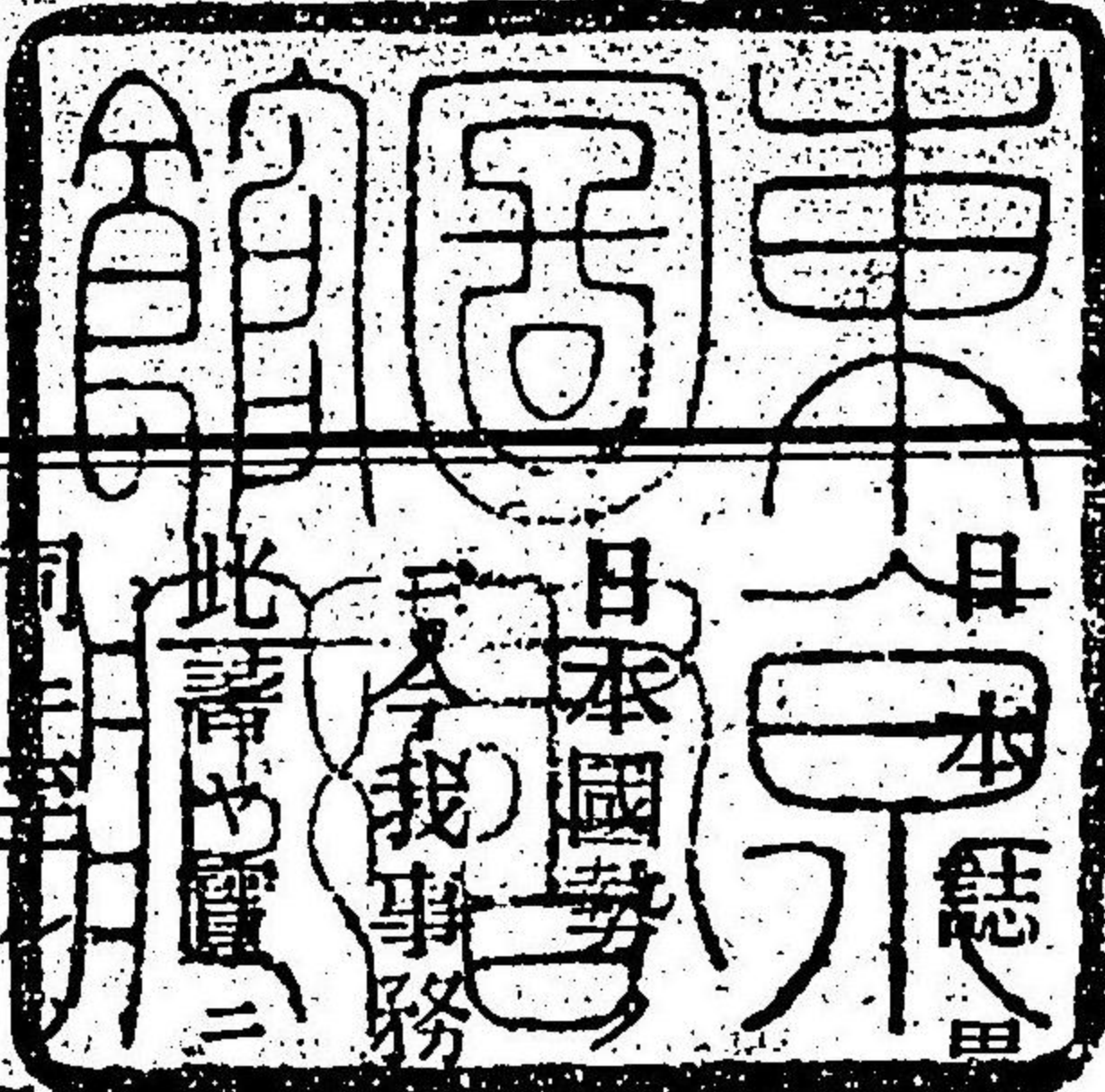
附										
七十三	七十五	七十六	七十六	七十八	三	三	三	四	五	六
四	二	二	十	十	三	五	十	一	四	一
事監ヲ理セヨム	献	太	時	太	八二二六六	七、七四三、七〇				
	明	化	統	風						
					萬〇ニ出ス〇モノ		六七九、九三		四一八六七八九三、	一七二八〇、四
事ヲ監理セシム	叙	大	持	大	八二二、八六	七、七四二、七〇	萬圓ニ出ヅルモノ	六七九、一九三	二四五、七三二、二二五	四一八六七八九三九
	明	化	統	風						一七二八〇六四

四

表		
六	十	十六
一	一	一
八九三一四三三〇	一〇二九二〇三九	錢道
八九三一四二二	一〇二九二〇三八	鐵道

五

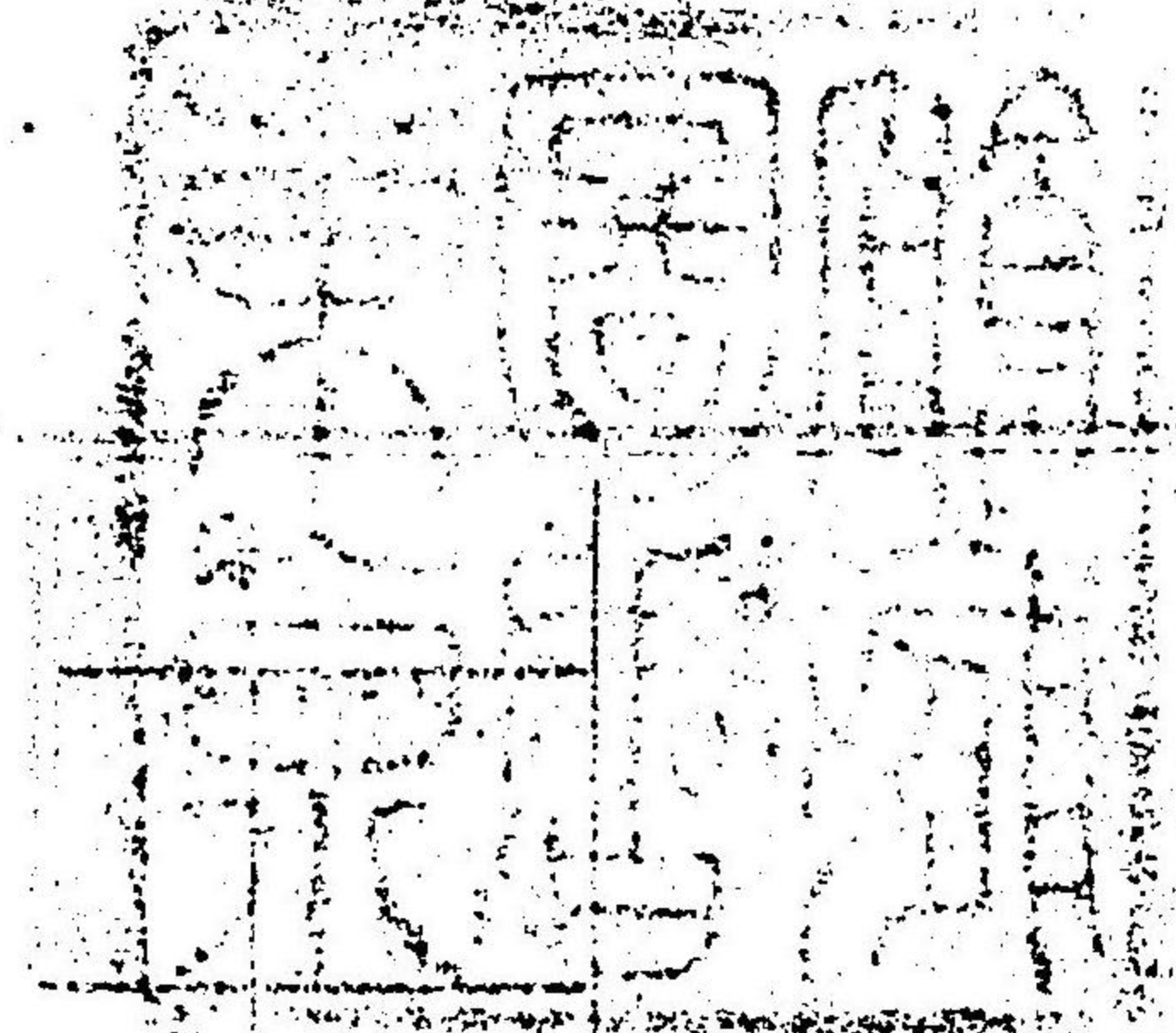
特 29  
583



日本誌 緒言

沿革ハ近來外國修史家ノ專ラ討覆講究スル所トナレリ故  
日本國勢  
今日我事務官ニ於テ其近況ヲ示サンカ爲メ此書ヲ編纂刊行セリ  
此書ハ實ニ日本ノ史傳及ヒ地誌ヲ表スルノ外更ニ太政官ヨリ諸省局  
同ニ  
體制章程ヲ掲載シ且ツ會計貿易ニ干スルノ表ヲ附加セリ  
或ハ萬國ノ史ヲ講究スル者ノ照閱ニ供スルニ足ランカ

費府一千八百七十六年七月十二日 日本博覽會事務官



日本帝國誌畧

天皇諱睦仁

孝明天皇第二子母從二位藤原慶子爲皇太后藤原夙子所子養

聖誕

嘉永五年壬子九月廿二日 西曆一千八百五十三年十一月三日

立親王

萬延元年庚申九月廿八日 西曆一千八百六十年十一月十日

踐祚

慶應三年丁卯正月九日 西曆一千八百六十三年二月十三日

即位

同 四年戊辰八月廿七日 西曆一千八百六十八年十月十二日

改元明治

同 四年戊辰九月八日 西曆一千八百六十三年十月二十三日

皇后諱美子

父

故從一位一條忠香

誕辰

嘉永三年庚戌四月十七日 西曆一千八百五十二年五月二十八日

立后

明治元年戊辰十二月廿八日  
西曆一千八百六十九年二月九日

皇女

薰子女王

稱梅宮  
母權典侍正五位柳原愛子

今上天皇第二皇女

誕辰

明治八年一月二十五日

皇考

孝明天皇諱統仁

仁孝天皇第四子母新崩  
平門院皇后藤原楳子

皇太后諱夙子

父

故從一位九條尚忠

誕辰

天保四年癸巳十二月十四日  
西曆一千八百三十三年一月二十三日

皇伯母

桂宮淑子内親王

仁孝天皇第三皇女

以下誕辰  
等皆略之

皇叔母

靜寬院宮親子内親王

仁孝天皇第八皇女

親王

有栖川宮熾仁親王

有栖川宮熾仁親王

東伏見宮嘉彰親王

山階宮晃親王

梨本宮守脩親王ナガ

伏見宮貞愛親王

華頂宮博經親王

久邇宮朝彥親王

諸王

北白河宮能久王コシヒサ

伏見宮宗諱女王

伏見宮文秀女王

閑院易王ヤス

諸王而不為養子者無位者畧之

皇統

即位年紀

日本紀元

神武 一 年

綏靖 八 年

安寧 百一十二年

懿德 百五十一年

孝昭 百八十六年

孝安 二百六十九年

孝靈 三百七十一年

孝元 四百四十七年

開化 五百三十三年

即位年紀

日本紀元

崇神 五百六十四年

垂仁 六百三十二年

景行 七百三十一年

成務 七百九十一年

仲哀 八百五十二年

應神 九百三十年

仁德 九百七十三年

履中 千六十年

反正 千六十六年





冷泉	千六百二十七年	仲恭	千八百八十一年
圓融	千六百二十九	後堀河	千八百八十一年
花山	千六百四十四年	四條	千八百九十二年
一條	千六百四十六年	後嵯峨	千九百二年
三條	千六百七十一年	後深草	千九百六年
後一條	千六百七十六年	龜山	千九百十九年
後朱雀	千六百九十六年	後宇多	千九百三十四年
後冷泉	千七百五年	伏見	千九百四十七年
後三條	千七百二十八年	後伏見	千九百五十八年
白河	千七百三十二年	後二條	千九百六十一年
堀河	千七百四十六年	花園	千九百六十八年

鳥羽	千七百六十七年	後醍醐	千九百七十八年
崇德	千七百八十三年	後村上	千九百九十九年
近衛	千八百一一年	後龜山	二千廿八年 <small>或爲二千二十九年未詳</small>
後白河	千八百十五年	北光嚴	千九百九十一年
二條	千八百十八年	北光明	千九百九十六年
六條	千八百二十五年	北崇光	二千八年
高倉	千八百二十八	北後光嚴	二千十二年
安德	千八百四十年	北後圓融	二千三十一年
後鳥羽	千八百四十三年	後小松 <small>兩朝合一</small>	二千四十二年
土御門	千八百五十八年	稱光	二千七十二年
順德	千八百七十年	後花園	二千八十八年

後土御門	二千二百二十四年	中御門	二千三百六十九年
後柏原	二千二百六十年	櫻町	二千三百九十五年
後奈良	二千二百八十六年	桃園	二千四百零七年
正親町	二千二百一十七年	後櫻町	二千四百二十二年
後陽成	二千二百四十六年	後桃園	二千四百三十年
後水尾	二千二百七十一年	光格	二千四百三十九年
明正	二千二百八十九年	仁孝	二千四百七十七年
後光明	二千三百一三年	孝明	二千五百零六年
後西院	二千三百一十四年	今上	二千五百二十七年
靈元	二千三百二十三年		
東山	二千三百四十七年		

明治八年九月

官制

太政官

法制修史ノ二局ヲ置ク

立法行政ノ事務ヲ總理スル所ニシテ元老院以下政府ノ各部ヲ主

管ス

○正院

天皇陛下親臨萬機ヲ總裁スル所トス

太政大臣 一員

天皇陛下ヲ輔弼シ立法行政ノ可否ヲ獻替スルヲ掌ル

左右大臣 各一員

諸機務ヲ議判スルヲ掌ル太政大臣事故アルトキハ其代理タ

ルヲ得

参議 無定員

諸機務ニ參與スルヲ掌ル

史官 無定員

大史 權大史 少史 權少史

詔勅官位勲記等ヲ造リ諸公文案ヲ草シ諸務ヲ幹理シ文章記録  
受付傳達ノ事ヲ掌ル

主記 無定員

各課ニ屬シテ書記計算ノ事ヲ掌ル

大舍人 二十員

官中分番宿衛雜使ヲ掌ル

天皇陛下正院ニ親臨萬機ヲ總裁シ太政大臣之ヲ輔弼シ左右大臣參議  
之ニ談判參與シテ庶政ヲ統理ス  
立法行政ノ事務ヲ區別シ立法ニ關スルモノハ之ヲ元老院ノ會議ニ付  
ス  
制度條例ハ太政大臣是ヲ布告シ勅旨特例ノ事件ハ太政大臣ノ奉勅ヲ  
以テ之ヲ發ス

○法制局

法制局ハ正院ノ下命ヲ受ケ法制ヲ起草修正スルノ所トス  
長 一員

法制官ヲ統ヘ法制局ノ事務ヲ總提ス

法制官 十員

一等法制官 二等法制官 三等法制官 四等法制官

法制ノ起草修正ニ分任ス

書記 十員

正院ニ於テ新ニ法制ヲ起シ若クハ改正セントスル時ハ本局ニ下シテ議ヲ取り及ヒ案ヲ草セシム

元老院及ビ省使ヨリ正院ニ獻議スル所ノ起案ハ正院ヨリ本局ニ下シテ議ヲ取り其修正ヲ要スル者ハ修正案ヲ草セシム

本局起草若クハ修正シタル法案ヲ元老院ノ議ニ付スル時ハ正院ヨリ本局長官若クハ法制官ニ命シテ委員トシ元老院ニ出頭シテ辨明セシムル事アルベシ

○修史局

總裁 一員

修史ノ大體ヲ裁定シ其是非筆削等事至重ニ涉ル者ハ上奏取裁ス兼テ職員ノ進退ヲ總掌ス

副總裁 一員

掌總裁ニ同シ

總閱 即欠 定員

編修ノ事ヲ主理シ修撰官撰定スル所ヲ檢閲シテ之ヲ取捨刪定スルヲ掌ル

修撰 無定員

協修官輯采スル所ヲ受テ之ヲ脩纂シ其文辭ヲ結撰スルヲ掌ル兼テ檢討ノ事ニ任ス

協修 無定員

群籍ニ就キ事實ヲ采輯スルヲ掌ル

書記 無定員

引用圖書ヲ管シ其採訪出納及筆記校正ノ事ヲ掌ル

繕寫生 無定員

修撰協修ニ分屬シテ圖書繕寫ノ事ヲ掌ル

局長 一員

總閱修撰ノ内ヲ以テ之ヲ兼ヌ局中ノ事務ヲ所分シ兼テ編修各

員ノ勤惰ヲ監視スルヲ掌ル

副局長 一員

總閱修撰ノ内ヲ以テ之ヲ兼ヌ掌局長ニ同シ

幹事 無定員

記録往復及雜務ヲ掌ル

地誌掛

全國ノ地誌編輯ヲ掌ル

○式部寮

式禮祭祀ノ事務ヲ管理スル所トス

頭 權頭

寮中諸官員ノ首長ニシテ其事務ヲ管理スルヲ掌ル各寮皆

同シ

助 權助

寮中各分局分課ノ事務ヲ擔當スルヲ掌ル各寮皆同シ

屬

寮中ノ事務ヲ處ス各寮皆同シ

掌典

祭事神饌ヲ掌ル

神部

祭事ノ諸務ヲ掌

俗人

雅樂ノヲ掌ル

○元老院

本院ハ議法官ニシテ新法ノ設立舊法ノ改正ヲ議定シ及ヒ立法

ニ關スル諸建白ヲ受納スル所ナリ

議長

一員

特選トス

副議長

一員

議員中ニ於テ公選ス

議官

無定員

特選トス

書記官

無定員

大書記官 權大書記官 少書記官 權少書記官

院中諸事務ヲ分任ス

書記生

院中書記計算等ノヲ掌ル

新法ノ設立舊法ノ改正ニ抱ラス議案ハ統テ 天皇陛下ヨリ附與セ  
ラルヘシ縱令本院ノ起草ニ出ルト雖モ直ニ之ヲ會議ニ付ス可ラス

各行政官ニ於テ既定ノ法令規則ニ違背スル所アレバ之ヲ推問シ其事由ヲ 天皇陛下ニ具奏セルヲ得ルト雖モ官員ノ黜陟ヲ議スルヲ許サズ議長副議長議官ニ撰任セラルハ者ハ皇族華族及勅任官ニ昇リシ者國家ニ巧勞アル者政治法律ノ學識アル者ニル限ヘシ

○外務省

外國交際ニ關スル事務ヲ管理スル所トス

卿

一員 參議之ヲ兼任ス

省中一切ノ事務ヲ總判シ其諸官員ヲ統率ス各省皆同シ但所管ノ寮司アレハ其事務ヲ總判ス

大輔 少輔 各一人

職掌卿ニ亞ク卿關席スルトキハ其代理タルヲ得ル各省皆同シ

大丞 權大丞 少丞 權少丞 無定員

卿輔ノ命ニ從ヒ省中各課ノ事務ヲ幹理スルヲ掌ル各省皆同但シ寮司アレハ其事務ヲ通知ス

錄 筆生 省掌 無定員以下各省皆同シ

各課長ニ從ヒ其事務ヲ處辨ス各省皆同シ

特命全權公使 辨理公使 代理公使

總領事 領事 副領事

書記官 書記生

締盟各國ニ駐劄ス



○内務省

國內安寧保護ノ事務ヲ管理スル所トス勸業驛遞戸籍警保土木  
地理圖書ノ七寮ヲ置キ事務ヲ分任ス

卿 參議之ヲ兼任ス

大輔 少輔

大丞 權大丞 少丞 權少丞

錄

○勸業寮

農工商ノ諸業ヲ勸奨シ確實盛大ナラシムル事務ヲ掌管スル  
所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○驛遞寮

驛路遞送及内外郵便ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○戸籍寮

全國戸數人員及社寺ノ調査ヲ管理シ褒賞救窮ノ施設ニ關與  
スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○警保寮

國中ヲ安靜ナラシメ人民ノ健康ヲ保護スル爲メニシテ其安靜健康ヲ妨クル者ヲ豫防スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○土木寮

水理堤防道路橋梁等ノ施設造築修繕ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○地理寮

府縣ノ制置國郡村市ノ分合宅地耕地山林原野河海池沼道路港灣等ニ管スル一切ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○圖書寮

頭 權頭

助 權助  
属

○大藏省

理財會計一切ノ庶務ヲ統理スル所トス造幣租稅紙幣出納統計  
檢査國債記録ノ入寮ヲ置キ事務ヲ分任ス  
卿參議之ヲ兼任ス

大輔 少輔

大丞 權大丞 少丞 權少丞

錄

租稅寮

租稅庸ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

属

○造幣寮

貨幣鑄造ノ事ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

属

○紙幣寮

公債証書又ハ証券紙幣其他諸印紙類等一切ノ事務ヲ掌管ス

ル所トス

頭 權頭

助 權助

属

○出納寮

歳入歳費其他諸出納ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

属

○統計寮

歳入歳費及公債証書紙幣又ハ諸印紙發行ノ員數其他戸口地

方面積物貨ノ産出海外輸出入品ノ多寡等形狀ヲ表出スルヲ  
ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

属

○検査寮

金穀ノ出納ニ關スル事務ヲ審案検査スル所トス

頭 權頭

助 權助

属

○國債寮

○内外國債償還紙幣支消ノ事ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

属

○記録寮

諸記録諸簿冊等ヲ編輯シテ之ヲ管守スル所トス

頭 權頭

信據ノ文書傳標及公債証書紙幣等ニ捺印スルヲ掌ル其他ノ職分ハ各寮ノ頭ニ同シ

助 權助

属

○陸軍省

陸軍一切ノ事務諸鎮臺ヲ總管スル所トス五局三部及ヒ裁判所ヲ置キ庶務ヲ分掌ス

卿

大輔 少輔

大丞 權大丞 少丞 權少丞

卿官房

房長參謀大佐 參謀中佐

傳令使 參謀少佐 砲兵少佐

傳令尉官 歩兵大尉 騎兵大尉 工兵大尉

課 僚

第一局 通報 軍務 庶務

第二局 歩兵 騎兵

第三局 砲兵

第四局 工兵

第五局 會計事務

大將 中將 少將

參謀 要塞 憲兵 歩騎 砲 工兵 輜重 ノ 八科ヲ總管シ 六管鎮臺兵 及ヒ近衛兵ヲ揮指スルヲ掌ル

大佐 中佐 少佐

職掌將官ニ亞ク

大尉 中尉 少尉

各部分ノ兵ヲ指揮スルヲ掌ル

○會計部

陸軍糧食被服病院等一切ノ用度出納ヲ掌ル所トス

監督長

監督 副監督 監督補

用度會計一切ノ事務ヲ監視スルヲ掌ル

司契 司契副

鎮臺ノ司令將官ニ属シ又諸隊ノ司令官ニ隸シ出納ノヲ掌ル

軍吏正

軍吏 軍吏副 軍吏補

監督司契糧食被服病院ノ五課ニ属シテ事務ヲ擔當スルヲ掌ル

○軍醫部

陸軍ヤ人ノ健全ヲ保護シ疾病豫防治療等ヲ掌ル所トス

軍醫總監 軍醫監

部内一般ノ事務ヲ總理シ醫官ヲ撰任シ軍醫學校ノ規則ヲ設立シ生徒ヲ教育スルヲ掌ル

軍醫正

各鎮臺ノ病院長ニ任シ一切ノ醫務ヲ擔當スルヲ掌ル

軍醫副 軍醫補

醫事及ヒ療治ヲ掌ル

藥劑監

本病院ニ在テ藥物并醫科百般器械ノ精粗ヲ點檢シ及其出納ヲ監視スルヲ掌ル

藥劑正 劑官 劑官副 劑官補

各鎮臺ニ在テ藥物器械等ヲ總括スル藥劑官ニ同シ

○馬醫部

全國陸軍ヤ馬ノ强健ヲ保護シ病馬醫療ノコヲ總轄シ芻秣ノ性費飼養ノ得失利害ヲ辨明シ驅役ヲ斟酌指定スル所トス

馬醫監

部内一般ノ事務ヲ總理シ馬醫官ヲ撰任シ馬醫學校ノ規則ヲ

設立シ生徒ヲ教育スルヲ掌ル

馬醫 馬醫副 馬醫補

病馬院ニ交番宿直シ専ラ院内及ヒ外來ノ病馬ヲ治療スルヲ

掌ル

○裁判所

陸軍文武士卒糺彈捕亡斷獄ノ事ヲ掌ル所トス

長

所中ノ官員ヲ領シ庶務ヲ處決シ罪狀斷案罰文ヲ考覈判決ス

ルヲ掌ル

評事 權評事

口供ニ依リ罰文ヲ作り非違ヲ推究シ博ク所中ノ得失官員ノ

勤惰能否ヲ視察スルヲ掌ル

主理

糺問ノ事ヲ掌ル

錄事

罪人ノ口供ヲ書記スルヲ掌ル

○海軍省

海軍一切ノ事務ヲ總管スル所トス四局四寮水兵本部及裁判所

提督府ヲ置キ事務ヲ分掌ス

卿

大輔 少補



大丞 權大丞 少丞 權少丞

秘史局

事務記録文書ヲ掌ル所トス

秘書官 權秘書官

局中ノ事務ヲ總管スルヲ掌ルニ局皆同シ

秘書 秘書副

局中ノ事務ヲ分課擔當スルヲ掌ルニ局皆同シ

○軍務局

軍中規定人別ヲ掌ル所トス

秘書官 權秘書官

秘書 秘書副

○會計局

出納調度倉庫營繕ヲ掌ル所トス

主計大監 主計少監

主計 主計副

○兵器局

大砲小銃彈藥諸兵器等ノ製造修理及貯蓄配賦ヲ掌ル所トス

長

屬僚

大將

大艦隊ノ指揮ヲ掌ル

中將

大艦隊及ヒ提督府ノ指揮ヲ掌ル

少將

中艦隊及ヒ提督府ノ指揮ヲ掌ル

大佐

小艦隊ヲ指揮シ一二三等軍艦ノ長ニ任ス

中佐

一二三等軍艦ノ長ニ任ス

少佐

四五等軍艦ノ長ニ任ス一等軍艦ノ副長ヲ勤ム

大尉

六等軍艦以下ノ長ニ任ス二等軍艦以下ノ副長ヲ勤ム

中尉

少尉

○主船寮

船艦并器具蒸氣器械製造修理及點檢機關士配置艤装等ヲ掌ル所トス

頭 權頭

助 權助

属

機關大監 機關少監 機關士

匠司

師

工長

船艦并蒸氣器械造修點檢及生徒教育等ノ事ヲ掌ル

○水路寮

海路測量水路嚮導監督等ノ事ヲ掌ル所トス

頭 權頭

助 權助

属

○兵學寮

生徒ヲ教導シ海軍武官成材ヲ掌ル所トス

頭 頭助

助 權助

属

大教授 中教授 少教授

助教

學事ヲ總理シ生徒教導ヲ掌ル

○軍醫寮

船艦乗組並提督府其餘各所一切ノ醫務ヲ掌ル所トス

頭 權頭

助 權助

属

大醫監 中醫監 少醫監

軍醫 軍醫副

醫事治療及醫學生徒教育等ヲ掌ル

○水兵本部

海兵隊及砲兵隊ヲ管轄スル所トス

○裁判所

海軍文武士卒糺彈捕亡斷獄ノ事ヲ掌ル所トス

長

評事 權評事

主理 書記

職掌陸軍裁判所ニ同シ

○提督府

附近ノ諸港ヲ管轄シ東京並外六箇所ニ分守スルヲ掌ル所ト

ス

提督副提督知港事ハ時有テ之ヲ置ク

典

○文部省

學事ニ關スル一切ノ事務ヲ總管スル所トス

卿

大輔 少輔

大丞 權大丞 少丞 權少丞

錄

大督學 中督學 少督學

諸學校ヲ督シ學科教則ノ得失生徒ノ進否ヲ檢査シ論議改正ス  
ルヲ掌ル

視學

學事ノ形況教員ノ減否生徒ノ進否等ヲ點檢具狀スルヲ掌ル

書記

記録ヲ掌ル

○教部省

教義ニ關スル一切ノ事務ヲ統理スル所トス

卿

大輔 少輔

大丞 權大丞 少丞 權少丞  
錄

○工部省

工業ニ關スル一切ノ事務ヲ總管スル所トス  
工學鑛山鑛道燈臺  
電信製作營繕ノ七寮ヲ置キ事務ヲ分任ス

卿 參議之ヲ兼任ス

大輔 少輔

大丞 權大丞 少丞 權少丞

錄

○鑛山寮

鑛山一切ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○鐵道寮

鐵道一切ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○燈臺寮

燈臺一切ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○電信寮

電信一切ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○製作寮

造營建築及ビ諸器械製作ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○警繕寮

頭 權頭

助 權助

屬

○工學寮

工業ノ學ニ關スル一切ノ事務ヲ掌管スル所トス

頭 權頭

助 權助

屬

○司法省

諸裁判官ヲ監督シ庶務ヲ總判シ及檢事ヲ管攝シ檢務ヲ統理ス  
ル所トス

大 參議之ヲ兼任ス

大輔 少輔

大丞 權大丞 少丞 權少丞

錄

大檢事 權大檢事 中檢事 權中檢事 少檢事 權少檢事

非違ヲ按檢シテ之ヲ裁判官ニ彈告スルヲ掌ル

檢事補

事ヲ檢事ニ受ケ檢彈ヲ掌ル

○宮内省

内廷後宮離宮禁苑及ヒ皇族一切ノ事務ヲ管理スル所トス

卿

君德ヲ翼賛シ内政ヲ整理スルノ責ニ任ス其他各省ニ同シ

大輔 少輔

職掌卿ニ亞ク

大丞 權大丞 少丞 權少丞

錄

侍從長

常侍規諫兼テ侍從ノ勤惰ヲ監スルヲ掌ル

侍從番長

常侍奉仕兼テ當直ノ侍徒ヲ監シ規諫ノ事ニ就テハ長ニ對シテ  
其可否ヲ論辨スルヲ得ル

侍從

常侍奉仕シ若シ規諫セント欲スレバ長ニ談シテ後ニ上陳ス

侍講自一等至六等

陪侍教授兼テ御府ノ圖書ヲ管掌ス

侍醫自一等至六等

常侍健康ヲ保護スルヲ掌ル

藥劑官自一等至三等四等以下ノ侍醫之ヲ兼任ス



藥劑調製ノ事務ヲ掌ル

藥劑生

藥劑ヲ管守シ侍醫及藥劑官ノ指令ニ從テ調製スルヲ掌ル

馭者

御車調馬并飼養等ノヲ掌ル

雜掌

御座敷設灑掃等官中ノ雜役ヲ掌ル

○大審院

民事刑事ノ上告ヲ受ケ上等裁判所以下ノ審判不法ヲ破毀シ全

國法憲ノ統一ヲ主持スル所トス

大審院ノ權限ハ佛朗西ノ破毀裁判所ノ体裁ヲ具シ尙ホ米利

堅ノ上等裁判所ノ有セル權限ヲ併有ス

長

各課長ヲ命シ事務ヲ分付シ隨時各庭ニ臨ミ重安事件ヲ聽理シ又合員會議ノ議長トシ兩議平分ヲ判決スルヲ掌ル

判事

民事刑事ノ上告ヲ判理シ國事犯内外交渉ノ事件並判事ノ罪犯ヲ審判シ及ヒ死罪ノ案法律ノ疑條ヲ審閱辨明スルヲ掌ル

属

事ヲ判事ニ受ケ上抄シ及ヒ簿書ヲ掌ル裁判所屬皆同シ

審判不法ナル者ヲ破毀シ已ニ他ノ裁判所ニ移シ之ヲ審判セシムルノ後大審院ノ旨ニ循ハザル時ハ大審院更ニ自ラ審判ス

陸海軍裁判所ノ裁判權限ニ越ユル者ハ其裁判ヲ破段シテ當然ノ裁判所ニ付ス

○上等裁判所

府縣裁判所ニ服セズシテ控訴スル者ヲ覆審スル所トス都府并一二ノ縣ニ置ク

長

控訴事件ヲ各課ニ公付シ各課長ヲ命シ隨時各庭ニ臨ミ重要ノ事件ヲ聽理スルヲ掌ル

判事

管内ノ控訴ヲ受ケ之ヲ審覆スルヲ掌ル

判事補

事ヲ判事ニ受ケ控訴下調ヲ掌ル

属

死罪ヲ裁スルハ上等裁判所ノ權任トス然レモ大審院ニ案ヲ具ヘ批可ヲ得テ然ル後ニ決行ス

○府縣裁判所

一切ノ民事及ヒ刑事懲役以下ヲ審判スル所トス

判事長

司法卿大審院長上等裁判所長ト往復ス他ハ判事ニ同シ

判事

民事ヲ初審シ刑事懲役以下ヲ審判スルヲ掌ル

判事補

事ヲ判事ニ受ケ便宜判事ノ缺ニ填ツ  
属

終身懲役ハ上等裁判所ノ審批ヲ取り決行ス

○開拓使

北海道開墾ノ事ヲ掌ル所トス

長官 次官

職掌各省卿ニ同シ

大判官 中判官 少判官

職掌各省丞ニ同シ

幹事 權幹事

本使ノ事務ヲ監視スルヲ掌ル

主典

記録ヲ掌ル

明治八年三月北海道ニ屯田兵ヲ設ク故ニ長官ハ將官ヲ兼任シ佐官尉  
官以下諸武官ヲ置キ且ツ邏卒長及ヒ邏卒ノ設ケアリ

○警視廳

東京府下人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スル所トス

大警視

本廳ノ事務ヲ總提シ權大警視以下ノ諸員ヲ管督スルヲ掌ル

權大警視 中警視 權中警視

少警視及警部巡查ヲ總攝シ廳務ヲ議判シ大警視關席ノ時ハ其事ヲ代理ス

少警視 權少警視

事ヲ權大警視以下ニ承ケ各務ヲ分掌シ又各大區各方面署ノ長トナリ區中警保ノ事ヲ督スルヲ掌ル

警部

權大警視以下ノ指揮ニ屬シ事務ヲ分掌シ又各大區各方面署ニ派出シ事務ヲ攝行シ又各小區中警保ノ事ヲ督スルヲ掌ル

警部補

警部ノ事務ヲ補助スルヲ掌ル

○府三

憲法典令ヲ遵奉施行シ部内ノ安寧部民ノ保護徵稅勸業教育等ノ事ヲ行フ所トス 藩縣皆同シ

知事 權知事

府内ノ事務ヲ統知スルヲ掌ル

參事 權參事

職掌知事ニ亞ク

屬

諸記錄ヲ掌ル藩縣屬皆同シ

管内互市場アレバ貿易事務ヲ兼掌ス

○藩

王

藩内ノ事務ヲ統理スルヲ掌ル

大参事 權大参事 少参事 權少参事

藩王ヲ輔ケ其事務ヲ調理スルヲ掌ル

○縣 五十九

令 權令

縣内ノ事務ヲ統知スルヲ掌ル

参事 權参事

職掌令ニ亞ク

属

○議院

各地方長官事ヲ議スルノ所ニシテ毎年一度之ヲ開クヲ以テ常

例トス

議長

院中ノ規則ヲ掌リ議員ヲ總括シ衆議ヲ判定スルヲ掌ル

幹事長

議長缺席ノ時其職務ヲ代理シ且小會議ノ節其會主トナルヲ掌

ル

幹事

議長ノ命ヲ以テ議事ニ關スル一切ノ事務ヲ經理スルヲ掌ル  
書記官

記録ノ事ヲ總管シ庶務ヲ處置スルヲ掌ル  
書記生

記録ノ事ヲ掌ル

司計長

用度ノ事ヲ總管スルヲ掌ル

司計

用度ノ事ヲ掌ル

議員

地誌

大日本國

帝國日本ハ太平洋ノ西北ニ位シ四大島群小嶼ヲ併セテ國ヲナス北緯  
二十四度二十零分琉球波ヨリ起テ五十一度北海道ニ至リ經度東京偏  
東十六度四十八分北海道千島州○即英國領ヨリ起テ西十六度五十五  
分琉球與ニ至ル西北日本海ヲ隔テ朝鮮ニ對シ東北千島群島斷續シテ  
魯西亞ノ堪察加ニ連ル西南ハ琉球諸島アリテ臺灣及支那地方ニ對ス  
長凡五百里廣三十里或ハ六十餘里ニ至ル幅員凡二万三千七百四十方  
里地形狹長山脉北ヨリ起リ分レテ數脉トナリ西南ニ走ル最高キ者ヲ  
富士山ト爲ス駿河元噴火山直立一万四千一百七十尺絶頂ハ四時多クハ雪  
ヲ戴ク之ニ亞テ岩城山陸鳥海山羽月山羽筑波山常淺間山信濃御嶽

同越前加賀大石鎧山伊温温泉嶽肥前阿蘇山肥後等アリ皆  
 州立山中白山賀大峯和石鎧山豫温泉嶽火山阿蘇山火山  
 有高山ナリ全國水源多シ然レ地狹ヲ以テ長大ノ河水ヲ成サズ  
 就中利根川水源信濃川木曾川同三大川ト稱シ最上川水源阿武隈  
 川磐城北上川陸中天龍川信濃富士川甲斐大井川水信濃  
 川石見伯耆吉野川水伊豫後川水亦巨川ノ名アリ湖沼ハ琵琶湖江  
 州ヲ最大トス周回七十三里三十一町湖中漁船ヲ通ス氣候大率中和北  
 方ハ早寒多雪南地ハ恒ニ温燠ナリ

戸數七百壹十壹万零壹百七十七戸

人員三千三百三十万零六百七十五人

男合一千六百八十九萬一千七百廿九人 女合數一千六百四十万八千九百四十六人  
 十四以下 四百七十五萬四千九百三十一人 十四以下 四百六十三萬零四十一人

十五以上	二百零二萬九千五百二十人	十五以上	六百六十二萬三千九百人
十四以上	五百萬一千三百零一人	十四以上	五百零四萬一千九百七十二人
十三以上	三百六十三萬一千二百九十九人	十三以上	十一萬零八百七十八人
十二以上	一百四十萬一千五百五十人	十二以上	平民家 九百六十八人
十一以上	七萬一千一百八十四人	十一以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
十以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	十以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
九以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	九以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
八以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	八以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
七以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	七以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
六以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	六以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
五以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	五以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
四以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	四以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
三以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	三以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
二以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	二以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
一以上	平民家 族ノ内 七百九十八人	一以上	平民家 族ノ内 九百六十八人
未詳	平民家 族ノ内 七百九十八人	未詳	平民家 族ノ内 九百六十八人
モノ	平民家 族ノ内 七百九十八人	モノ	平民家 族ノ内 九百六十八人

全國分テ畿内八道八十五州ト爲シ二京三府六鎮五十九縣ヲ置キ府ニ  
 知事縣ニ令アリテ之ヲ管轄シ北海道ハ開拓使ヲ置キ琉球ハ藩王ヲ封

畿内五州 山城 大和 河内  
 和泉 攝津

東海道十五州	伊賀	伊勢	志摩	尾張	三河	遠江	駿河	甲斐
東山道十三州	近江	美濃	飛騨	信濃	上野	下野	常陸	
北陸道七州	若狹	越前	加賀	能登	羽前	羽後		
山陰道八州	丹波	丹後	但馬	因幡				
山陽道八州	備前	備後	備中	備前				
南海道六州	紀伊	淡路	阿波	長門				
西海道十二州	筑前	筑後	豐前	豐後	肥前	肥後		
北海道十一州	日高	渡島	後志	石狩	天鹽	北見	釧路	根室
二京	東京	京都						
三府	大坂	京都						
六軍鎮	東京	陸前州仙臺城	尾張州名古屋城	肥後州熊本城				

五十九縣

神奈川	兵庫	長崎	新潟	埼玉	熊谷	足柄	千葉
茨城	栃木	奈良	群馬	三重	度會	愛知	濱松
山梨	滋賀	岐阜	富山	長野	宮城	福島	磐前
山梨	岩手	青森	山形	置賜	鶴岡	秋田	敦賀
石川	新川	相川	豐岡	鳥取	鳥根	濱田	飾磨
岡山	廣島	山口	和歌山	名東	香川	愛媛	高知
三瀨	小倉	大分	佐賀				
白川	宮崎	鹿兒島					

東京ハ武藏州ニアリ北緯三十五度四十零分經度零度 皇城○即英國偏  
 十六 全國ノ中央ニ居ル六大區ニ分チ人口五十九万三千五百零五人舊  
 江戸ト云徳川氏ノ治所ニシテ市街雄壯車馬絡繹タリ東南ハ隅田川ヲ  
 帶ヒ江戸灣ヲ擁シ横濱港ニ連リ舟楫相望ミ運輸至便百貨輻湊ス明治  
 元年 紀元二千五 始テ皇居トナシ東京ト稱ス制度ヲ一新シ太政官十省  
 百二十八年 大學本部中學二所 開成學校  
 元老大審兩院ヲ設ケ陸海軍大小學校 小學六百六十五所 醫學校



病院警視廳博物館及郵便電信二局等備ハラサル所ナシ市坊橋梁ヲ修  
シ瓦斯燈ヲ點シ鐵道ヲ橫濱ニ通ス電線ハ京都大坂北海道及長崎ニ至  
リ歐羅巴ニ達ス外國通好以來各國人ノ居留地ヲ定メ公使館ヲ建ツ又  
神社佛寺分園等ノ美觀甚多ク文物尤盛ナリ

京都ハ山城州ニアリ北緯三十五度一分西經四度二分 即英國東經百三十五度四十四分

東京ヲ距ル百三十一里三十五丁人口二拾三萬八千六百六十三人地勢

平坦東ニ加茂川ヲ帶フ北ヲ上京南ヲ下京ト稱ス延曆十三年 紀元千四百五十四年

ヨリ歷代ノ帝都タリ規模廣大ナラスト雖市街潔整山水秀美ニシテ  
古蹟名勝多ク絹帛錦繡ヲ産ス

大坂ハ攝津州ニアリ北緯三十四度四十一分西經四度十六分 即英國東經百三十五度三十分

京都ヲ距ル凡ソ十三里四大區ニ分チ人口二拾七萬一千九百九

拾二人西南海ニ臨ミ全國海陸ノ要衝タリ河水縱橫市街ヲ繞リ數十ノ  
長橋ヲ連架ス小漁船京都ニ往來シ運漕甚便ナリ故ニ物貨繁盛人民富  
庶海濱外國人ノ居留地アリ官署ハ造幣寮鐵道寮及ヒ裁判所等アリ鐵  
道ハ兵庫及ヒ京都ニ通ス

互市場六所橫濱 武藏州○安政六年即紀元二千五百十九年開港 大坂 攝津州○明治元年紀元二千五百二十八年開港

戶 同州○開港 長崎 肥前州○開港 新潟 越後州○開港 函館 北海道渡島州○開港

北海道舊蝦夷ト名ク東西凡百六十里南北百二十里地勢廣邈肥瘠一ナ

ラス高山多ク時ニ噴火ノ災アリ後方羊蹄山最高聳石狩川又巨川ト稱

ス總テ十一州ニ分チ開拓使廳ヲ石狩州札幌ニ置キ支廳ヲ函館 渡島州 根

室 根室 留萌 天鹽 州 ニ分置シ全島ヲ經理ス電線ハ陸奥州接續シテ後志

州小樽ニ至ル西南海濱ニ專ラ内地ノ民ヲ移シテ墾開播殖ニ從事ス上

人ハ概山中ニ住ス言語風俗少シク異アリト雖モ資性質樸ニシテ能漁獵ヲ勤ム

千島州ハ北海道ノ東北ニアリ西洋人之ヲ古北緯四十四度ヨリ五十一度ノ間大小島嶼散布シテ斜メニ魯西亞ノ堪察加ニ接ス其大ナル者國

後撰提字留津不ノ三島トナス明治八年紀元二千五百三十五年樺太島ヲ以テ魯西亞所領古利諸島ノ十八島ニ交換ス

琉球ハ薩摩ノ西南凡百三十里ニアリ本島ヲ沖繩島ト名ク長凡二十四里廣十里或ハ四五里ニ至ル属島三十六島内ヲ國頭中頭島尻ノ三省ニ

分ツ首府ヲ首里ト稱ス氣候温暖嚴冬冰雪ヲ見ズ治體封建ノ制ニシテ諸按司ヲ分置ス猶侯伯ノ如シ國力微弱人物柔惰然モ文辭ニ篤ク自ラ

龐樸ノ風アリ言語内地ニ同シク其俗束髮笄簪シ衣帶寬濶ナリ文治三

年紀元千八百四拾七年浦添按司舜天王源為朝ノ遺子ナリト云國亂ヲ平ケ王位ニ登リ變

世相傳フ慶長中徳川將軍薩摩藩ニ命シテ之ヲ征服シ爾來世々入貢ス

明治五年紀元貳千五百三拾貳年更ニ封シテ藩トナシ王尚泰ヲ一等官ニ准シ邸ヲ

東京ニ賜ヒ官吏ヲ遺テ藩事監ヲ理セヨム

歴史

太古ノ世其年歴ノ詳ナル得テ考フ可ラス瓊々杵尊ヨリ日向國ニ都シ其曾孫神武天皇日向ヲ發シテ東征シ中原ヲ平ケ大和ニ入り都ヲ橿原ニ定メ即位ノ禮ヲ行フ以來皇統一系萬古不易綿トシテ今日ニ至ル乃チ天皇即位ノ年ヲ以テ紀元第一年トナス西曆紀元前六百六拾年其後歴世天皇屢々都ヲ遷ス大和ニアルモノ凡三十所ニシテ又近江攝津河内等ニ在リ

紀元五百七十三年

西曆紀元前八拾八年

第十代崇神天皇四道將軍ヲ置テ四方ノ

叛者ヲ征服シ又皇子豐城入彦ニ命シテ專ラ東國ヲ治メシム

紀元七百四十一年

西曆八拾貳年

第十二代景行天皇西國ノ叛者ヲ親征シ又皇

子日本武尊ヲ遣シテ東西叛賊ヲ討平セシメ邦内大ニ定マル

紀元七百九十五年

西曆百三拾五年

第十三代成務天皇山河ヲ界シ國郡縣邑ヲ

定ム

第十五代應神天皇ハ仲哀天皇ノ皇子ナリ天皇未タ降誕セス仲哀帝崩

ス母神功皇后攝政シテ天下ヲ治メ又三韓ヲ親征シテ之ヲ降ダス是歲

紀元八百六十年

西曆貳百年

ナリ是ヨリ後三韓藩ト稱シ多年我朝ニ來貢セ

リ紀元八百九十八年

西曆二百三拾八年

使ヲ支那ニ遣ハス時ニ支那魏ノ明帝ノ

景初三年ナリ明年魏人ナシテ來報セシム紀元九百四十六年

西曆二百八拾六年

百濟國ノ人王仁來テ支那ノ論語ヲ獻ス

第十六代仁德天王ハ性仁孝獻明心ヲ政事ニ專ラニシ務メテ窮民ヲ賑

恤シ躬ヲ節儉ヲ行ヒ民ノ租稅ヲ除ク三年百姓殷富刑措テ用井ス稱シ

テ聖帝トナス

第十七代履仲天皇始メテ史官ヲ諸國ニ置キテ民ノ言事ヲ記シ四方ノ

志ヲ達セシム

第二十九代欽明天皇ノ時紀元千二百十二年

西曆五百五十二年

百濟國ヨリ佛像

經論ヲ獻ス

第三十代敏達天皇ノ時蘇我馬子佛法ヲ信シテ物部守屋ト争フ後子守

屋殺サル浮屠ノ教漸ク弘マル

第三十三代推古天皇冠位十二階ヲ定メ又紀元千二百六十六年

西曆六百六年

小野妹子ヲ隋國ニ遣ハス

第三十六代孝德天皇即位ノ年始テ年號ヲ建テ太化元年ト曰フ即チ紀元千三百五年西曆六百四十五年ナリ此ヨリ後今明治ニ至ル年號ノ數二百二十八畿内ヲ界シ各州ニ國司ヲ設ケ關所驛傳ヲ作り兵備ヲ修シ八省百官ヲ置キ秩祿冠位田畝葬制禮法等ノ事ヲ定ム

第三十八代天智天皇諸王諸臣ノ位階ヲ増改シテ二十六級ト爲シ戶籍ヲ造リ朝廷ノ禮儀ヲ制シ始メテ漏刻ヲ置ク天皇太子タル時親ヲ製スル所水碓ヲ造リ鐵ヲ治ス學校ヲ興シ律令ヲ定ム中興ノ祖ト爲ス

第四十代天武天皇第四十二代文武天皇ノ兩朝ヲ歴テ禮儀法制又大ニ備ル男女ノ結髮亦天武ノ時ニ始マル第四十一代時統天皇始メテ唐曆ヲ行フ又各邦ニ詔シテ其民四分ノ一ヲ黜シテ武事ヲ講習ス

第五十代桓武天皇ノ時紀元千四百五十四年西曆七百九十四年都ヲ山城州ニ遷

シテ平安城ト名ケ定メテ歷代ノ皇居トナス即今ノ京都是ナリ

第五十六代清和天皇始メテ攝政ヲ置キ第五十九代宇多天皇關白ヲ置ク是ヨリノ後藤原氏世々此職ニ任シ朝政ヲ擅ニシ王室ノ權寢ク衰フ

第六十代醍醐天皇第六十二代村上天皇皆ナ精ヲ勵シ政ヲ爲シ天下大ニ治ル後世治ヲ言フ者必ス此二代ヲ稱スト云フ

第七十一代後三條天皇記錄所ヲ置キ沽價斗升ノ法ヲ定メ痛ク藤原氏ノ權ヲ抑ヘ朝綱大ニ張ル

第七十八代二條天皇ノ時千八百二十年西曆千六百六十年平清盛源義朝ト京都

ニ戰テ之ニ勝ツ尋テ太政大臣トナリ朝政ヲ專ラニス蓋シ源平二氏ハ世々武官ニ列シ名望アルノ家ナリ

第八十一代安徳天皇ノ時千八百四十年 西曆千八百四十年 義朝ノ子頼朝兵ヲ伊

豆ニ起シ平氏ヲ討ツ諸國ノ源氏蜂起シテコレニ應ス既ニシテ清盛薨

ス其子宗盛一族ヲ率非天皇ヲ奉シテ筑紫ニ走ル後鳥羽天皇位ニ京師

ニ即ク頼朝平氏ヲ滅ホシ紀元千八百四十六年 西曆千八百四十六年 諸國總追捕使

ニ任シ家臣ヲ以テ諸國ノ守護地頭トナシ府ヲ鎌倉ニ開キ天下ノ政權

ヲ握ル後終ニ征夷大將軍ニ任ス是ヨリ兵權專ラ武門ニ歸シ朝廷益々

衰ヘ封建ノ勢始メテ成レリ

頼朝薨シ其子頼家寶朝ニ傳ヘ源氏亡ブ其臣北條氏京師ヨリ親王及ヒ

公卿ノ子ヲ迎ヘ立テ將軍トスルモノ六人而シテ己レ政權ヲ執リ子孫

相傳ヘテ九代ニ及ブ第九十一代後宇多天皇ノ時北條時宗執權タリ紀

元千九百四十一年 西曆千二百四十一年 元兵大舉入寇ス時ニ太風起リ虜艦傾覆

西曆千二百四十一年

元兵大舉入寇ス時ニ太風起リ虜艦傾覆

ス我兵之ニ乗シテ奮戦ス元兵十萬生テ還ルモノ僅カニ三人

紀元千九百九十一年 西曆千三百九十一年 第九十六代後醍醐天皇北條氏ノ權ヲ

專ニスルヲ怒リ密ニ之ヲ誅センヲ圖ル專洩レテ北條高時京都ヲ廢コ

天皇笠置ニ幸シ楠正成ヲ召シ興復ノ專ヲ委ス正成兵ヲ赤坂ニ起シ後

金剛山ニ據ル高時光嚴天皇ヲ立テ後醍醐天皇ヲ隱岐ニ遷ス明年新田

義貞足利尊氏等起テ正成ニ應シ遂ニ高時ヲ誅ス是ニ於テ北條氏亡ヒ

天皇京師ニ還リ光嚴天皇ヲ廢ス王政古ニ復シ稱シテ中興トナス

既ニシテ尊氏反シ自ラ征夷將軍トナリ京師ヲ攻陷シ光嚴天皇ノ同母

弟光明天皇ヲ立ツ後醍醐天皇吉野ニ幸ス世之ヲ南朝ト謂ヒ京師ヲ北

朝ト稱ス是ヨリ足利氏京都ニ居リ世々將軍トナリ政權ヲ專ニス

後醍醐天皇ヨリ皇孫後龜山天皇ニ至ルマテ吉野ニ在ス凡五十七年

北朝後小松天皇即位ノ十一年南北講和シ後龜山天皇京師ニ還リ讓位  
受禪ノ式ヲ行ヒ兩統始メテ合一ス而シテ天下ノ權全ク足利氏ニ歸  
リ第百四代後奈良天皇ノ時足利義晴將軍タリ紀元二千二百二年西曆  
千五  
百四十  
二年 葡萄牙人「ヒントー」ナル者始メテ本邦ニ來ル其翌年商船ヲ長崎  
其他九州地方ニ送リ貿易ヲナス

第百五代正親町天皇ノ時紀元二千二百三十三年西曆千五百  
七十三年 足利氏尊

氏ヨリ十三代ニシテ七ヒ織田信長代ツマ政ヲ畿内ニ爲シ右大臣ニ任

ス此時群雄割據シ干戈相踵ク信長之ヲ戡定スルノ志アリ中道ニシテ

其將明智光秀ニ弑セラル信長ノ將豐臣秀吉蓋世ノ雄畧ヲ以テ立ロシ

光秀ヲ誅シ終ニ天下ヲ併一シテ關白トナル後太閤ト稱ス紀元二千二

百五十二年西曆千五百  
九十二年 朝鮮ヲ伐チ京城ヲ拔キ王子ヲ擒ニス明兵來リ

援フ又大ニ之ヲ破ル明主和ヲ講ス後和議破レテ再ヒ朝鮮ヲ攻ム會秀

吉疾ニ罹リテ薨ス是ニ於テ兵ヲ解キ諸將ヲ召還ス德川家康等秀吉ノ

遺命ヲ奉シテ其子秀賴ヲ輔佐シ政ヲ行フ此後紀元二千二百六十三年

西曆千六  
百三年 第百六代後陽成天皇ノ時家康大將軍ニ任シ居城ヲ江戸ニ築

キ政權ヲ統フ是ヨリ子々相傳ヘテ十五代ニ及フ

紀元二千二百六十九年西曆千六  
百九年 將軍德川秀忠ノ時和蘭ノ商船互市ヲ

始メ踵テ英吉利ノ商船モ亦來テ通商ス其間天主教ヲ傳フル者アリテ

其門徒蔓延セシヨリ賊徒之ヲ煽動シテ亂ヲ爲ス故ヲ以テ紀元二千二

百九十九年西曆千六百  
三十九年 第百八代明正天皇ノ時德川家光令シテ和蘭支

那兩國ヲ除クノ外嚴ニ商船ノ入港ヲ禁セ

紀元二千五百十八年西曆千八百  
五十八年 三至リ始メテ亞米利加合衆國ト交通

ノ條約ヲ定メ次テ西洋諸國ト締盟ス  
 紀元二千五百二十七年 西曆千八百六十七年 第二百一十一代今上天皇ニ至リ將軍  
 德川慶喜大政ヲ返還シ天皇萬機ヲ親裁ス源賴朝以來凡七百年來ノ舊  
 弊ヲ一洗シ大政古ニ復シ江戸ヲ以テ東京ト改メ皇居トス次テ封建之  
 制ヲ廢シテ郡縣トシ太陰曆ヲ改メテ太陽曆ヲ行ヒ大ニ泰西ノ諸制ヲ  
 採取シ文學工藝ヲ起シ君民一家ノ如ク日ヲ逐テ開化ニ進歩セリ

○明治六年歲出入統計表 即チ西曆一千八百七十三年 金圓ヲ以テ算ス

歲 入		歲 出	
地 租	六三、三五二、八七六	諸官省	一一、九〇六、五五四
海關稅	一、六六六、三五九	陸軍省	八、一三五、五二二
物產稅	二、六四五、四八六	海軍省	一、八八〇、七五四
雜 収	一三、八八七、五七三	地方官	一六、六八五、七四五
		官工費	五四七、〇六二
		華士族 秩祿	一一、四〇〇、七五〇
		國債償却	四、〇八七、四六三
		雜 費	二四、二三七、九七〇
總 計	八一、五五二、二九四	總 計	七九、八八一、八二〇
歲入ノ歲出ヨリ多キヲ一、六七〇、四七四			

○通商貿易統計表、ハ圓位ヲ表ス下同シ壹圓ハ壹弗六錢

總輸出	明治六年 千八百七十二年	明治七年 千八百七十四年	明治八年 千八百七十五年
總輸入	二九、一〇五、〇五七、九六	二二、八四一、一六六、九三	二九、三八〇、二九七、二五
輸出入ノ輸出 ヨリ多キヲ	七、七八七、五七六、一七	四、四七三、九〇七、四四	一〇、七六九、一九四、一四
○輸出入國分比較表	明治八年一月一日ヨリ 同 年六月三十日マデ		
國名	輸	出	入
大不列顛及其藩屬地	一、四二六、〇五二、六七	八、七三六、九四九、〇五	
西班牙藩屬地	一、三二三、九二	三、五五六、九二	
日耳曼	一一、〇七九、九一	五一一、四七二、三八	
佛朗西	一、二三六、二八八、〇六	二、二四九、二九七、七二	
支那	一、三二一、七二三、〇九	二、七四四、五六八、五七	

輸出殊額品表 表中ノ數字右端ヲ單位トス次表同シ

品目	價額一年五萬ニ出スモノニ限ル														
	明治一年	明治二年	明治三年	明治四年	明治五年	明治六年	明治七年	斤量	原價	斤量	原價	斤量	原價	斤量	原價
荷蘭															
伊太利															
魯西亞															
亞美利加合衆國															
澳地利															
瑞西															
其他ノ諸國															



爛 及 爛 繭 糸	玉 糸	鬚 斗 糸	生 糸
一六九四八三	八六九三六	七六六八一	一三七九二四三
六四六二七六四	一五二五九六六九	五六〇八七五五	六七八八八〇〇二五
一六三六五	六二五	九三六六六	七二六〇四五
四一一五五〇九	一二五〇	七六六〇〇三九	四四二五三八九 九五
一一五四八二	三〇一六	七四九三七	六八三三六二
三〇三七九〇六	八六二七三三	七四一八七六九	四四三二八九〇二九
二四八〇三一	五九九二	一五二一〇	一三三三四三四
六一七七六四二	一八一三二二	一一九六九一〇二	七三〇九一九四七五
三五二二三〇	一五七〇六	二一七八三八	八九五四九九
八八〇一一四六	三一一三八〇六	二〇五九二六五五	五二〇五二三七二二
二七五五〇		一三五四三五	一〇二一三二
九三八一三八二		一一七七三七三三	七二〇二四二一〇
三八三〇〇三	五五	九六六〇二	六七九九三
一一八二一四八	一四一四〇	八五二四四〇六	五三〇〇三八五六

茶	蠶卵紙	眞綿	虛及實 繭 繭
一〇二〇四一四九	二〇八二三四〇	三二七一八	一六二八一七
一七六九三二六二八	一五五一一八四五五	三九四一四七六	六四六六二三一
九二一七〇三一	一四一八九〇〇	七九一五九	一八八六三六
一六五八八九〇二八	一九四七三七七九九	一〇八九二二七八	九六一四二三八
一二三二四〇〇二	一四〇六〇三三	一〇二六六八	一二八四八〇
三六一九七〇七二三	一六三八一八〇五二	一六二四三一〇一	六九四〇二八九
一四〇六六八七	一四〇〇〇二七	一四八二九六	三八六八五九
四一八六七八九三九	一二七四四八九二	二〇五二五八九二	一八三六四二〇一
一四一四六七〇八	一二八七〇四六	一一二六九四	四四四八四八
四二一六五八七二六	二二四七三六五四八	一六八二九二八〇	二五六一九五九
一三三三四〇一六	一四一〇八〇九	六九四〇二	三四三四二一
四六五九二二七六〇	三〇六三〇三七七四	一六九七八七八五	二四七三三二五
一八八二九〇三〇	一三三五四六五	七七七八二	三七三二九二
七二五三四〇五九	七三一五七八一〇	一一二二三二四六	二四八七五一七七

昆 布 板 及 昆 刻 布	石 炭	鉛	銅 礦 石 、 丁 及 潰 銅 物 等
三九三二五一一	二六三八一四七九		一〇二六六六
一〇四四七四三三	七八三一七一七		一七二八〇六四
一四二六六四八一	二四四四七八四〇		五九九三七三
四五二七〇一七八	六四一五七七六		九五八一九七四
一三一四八九三九	四二二一七六三三		一二三五九六四
四三六六九〇四九	一一六二八八八四		一七六五二一三五
一七一八七二九七	四二七九四二五五		五六五一九八四
六六三一五三三	一〇〇六七二二〇		七五四七四九五
一六九三八二八六	五五二一七五〇三	六四六六二九	八九三一九三三
四一四三五六三八	一九二二一七八〇	三三〇八三二〇	一五八五四三三、四
二七八四〇三三二	二二二一〇七八四九	一六二二一〇〇	三三四九八四八
五三七一四八三三	六四一五四九一四	九二二一九〇七	八九〇五〇〇一六
二一六四〇七六	二二七五六七九六〇	二二二八〇五	二九六〇九七七
二九七八一五二九	五五五七五六〇一	一〇七一八七八	六七四四七八三〇

漆器	陶磁器	玩物	煙草葉 草刻及煙
			二〇三八一八
			一〇九二六八五
			四三〇八六〇
			二一六七六五二
			六四一七九〇
			三四二六〇三
			一二六三六四〇
五三九〇九九五	二〇四二二二六	三六四三八四五	八八三三三四五
			三〇九八八八五
八八〇二八七二	四五五三〇二	五九四二二二六	二四六六〇八一四
			二六四五七三九
一五九四四〇三	一一六四八〇九六	六八二九九二〇	二七九三八七〇五
			二九四六四三五
二二三〇〇六四	一〇三六七五〇二		二七四〇六五四七

乾 貝	鮑	煎 海 鼠	乾 錫
三八六一七	一三二七七六	一一八九三九	六〇八〇三九
六五一四九六	四二一三九一五	三九九八五七九	一二〇五八七九九
四〇八〇	三二二二四四	二七四二四五	七九七四五〇
二〇四	八三一四五〇九	三九〇四六二三	一二九三五六〇五
六九七二五	三四五〇七〇	二六九四六六	一一一三二七二
七二二〇一七	九六〇五七五三	一〇二六〇三七五	一四九六三四四四
一一一三九三	四四五五七九	二四八二二六	一〇三九八〇三
二四〇七五七〇	一一五九七八五〇	八四四九二四七	一七九三六七〇四
三八〇七五五	三九〇九〇九	三三六八八四	一七七二二一二
五四三八三七八	九三二四二一七	一四四〇七九六四	二七八一九一八〇
四四〇七三	五六四七七八	四八三九四七	一六三五八六〇
六六六三一〇	一四四六〇二二一	二三二二六五七九	二八二〇二九七一
二九四二八九	七四一三〇三	五二一六八三	二六五〇七一六
二二一八三五四	一九〇〇五〇六〇	一八八三〇六五六	三八三三七七一八

樟腦	人參	椎茸	木蠟
四六八、一五四	六九、三九九	三八七、九〇七	一三六、七八一六
七七、一三八四九	八七、三九九三七	一一七八、一〇六	一〇五、五六一一
六八九、八一	六五、七五二	三五八、三二六	五〇、二〇三五
一一、二三八〇八	三一、五七四七〇	一一五八、四四一六	六〇、四二四二〇
一五六、〇三六一	一〇、一七七三	四四六、五七七	四四八、六六一
二〇三八、九五六	五七七、〇二八四	一三四六、九八〇六	八九、八四八〇四
九一〇、九三八	八九、二四七	三七三、五五四	九三、二五〇三
一〇七八、八五三二	六五六、二九四六	九七〇、二五八四	一八三、〇七三二五
六五〇、九六八	六五、二九二	五一九、一五四	一七九、〇九六二
八八五、四二四七	九九、五七二五一	一〇六〇、〇四九二	二七三、五九九六
四二〇、四七一	七四、八九一	五一九、三一九	二五四、〇一八七
六八、三七四七	一三七、八六四一七	一五三、九三一九三	四二九、八四〇三五
一一、二三五八四	一四、八一四	五二五、四七七	一八八、一七八四
一五五、五五〇三三	二二、一〇八六七四	二一四、〇五五四	二二六、五四八九八

○明治七年一千八百七十四年外國船舶出入表

出港	旗章		英吉利	佛期西	日耳曼	魯西亞	旗章	
	艘數	噸數					艘數	噸數
橫濱	六	九	二五	七二	九四	八四〇六	六九二四	
	五	三	三三	九五	二二五	二五、七八	九一、三三	
神戸	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
大阪	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
長崎	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
函館	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
新潟	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	
	二	三	三三	九五	二二五	二二五、七八	九一、三三	

總計	扇子	紙	寒天
		二七八一一七	二四七二五七
一一五九七、一一八六三		四〇九九〇九一	六一九九五七八
		二〇〇〇一一	二一一七六一
九六七八一七四、五九		一〇六四八八一	五二六〇八六一
		二九〇三七三	二七二二二七
一一七三七、二四〇、九五		一、四四〇、六八	七六六八二九四
		一七八、八八九	四八三六〇六
一六〇五、三三八、八〇		一九九三、〇八	一二〇五五、四二八
		二七八、四〇〇	三三三三九九
一六三五〇、〇〇七〇		五〇〇、八八二	七八一六、三三七
		二三五、三八八	三六四、二八六
一九九五七、二二八、五九		五五七〇、六六七	一〇二九二〇、三九
		二五七、二七〇	五六、三八四
一七八六、四九二、二八	九〇九七、七〇三	三七、五八九、〇	一三四、二四三、一二

數ノ柄ハ\*

日耳曼	佛朗西	英吉利	帆船 合衆國	旗章	入港	通計	丁抹
八	三〇	八五	一〇六	艘數	橫濱	三〇	-
五五三二	三一四九四	九三〇二	二五五七四	噸數		四一九七二	三一四
三		三三	九六	艘數	神戶	一九五	
二四〇八		三〇六七九	一七五三六九	噸數		二四二七三八	
			四	艘數	大阪	九	
			二三一六	噸數		六六三七	
六		五二	一〇〇	艘數	長崎	二八一	四
五一一四		三七七二四	一七四八三	噸數		二五〇四五	一三〇
二		九	一〇	艘數	函館	四九	二
一四一四		三三五四	一八六一四	噸數		三三〇四九	三七〇
		四	-	艘數	新潟	五	
		一七六六	一九一四	噸數		三六八〇	

瑞典	魯西亞	日耳曼	佛朗西	英吉利	帆船 合衆國	丁抹
		二		六〇	一七	二
	一六三	二五	六三七	一一六四	三三〇〇	六八二二
		一七		二	四〇	
		四八九六	五六七		二九八八四	
					五	
					四三二一	
		二八	六	七五	九	六
二八〇		七五三	六三二七	二二六七九	三〇九一	二〇二二
		九		六	七	一
		四七一九		一五九一	九六七	三三七



○明治六年一千八百七十三年内國通運用帆船及汽船ノ艘數及ヒ船量			通計	丁抹	瑞西
八噸ヨリ三百八十三噸マデノ日本形船	帆船	艘數	三八二	一	一
外國形帆船	帆船	艘數	四六二七六五	三一四	一六三
汽船(七千〇七十九馬力)	汽船	艘數	一九〇		
總計	汽船	噸數	二三六九七〇		
	帆船	噸數	八		
	汽船	噸數	五四五〇		
	帆船	噸數	二九六	六	一
	汽船	噸數	二六一五八七	一六五九	二八〇
	帆船	噸數	四九	三	
	汽船	噸數	三〇六二五	三九二	
	帆船	噸數	五		
	汽船	噸數	三六八〇		

瑞典	魯西亞	日耳曼	佛朗西	英吉利	帆船合衆國	丁抹	魯西亞
一	二	三〇	四	七七	二九	二	六
二八七	三四七	八七二八	三〇七六	四四三二〇	一〇六〇八	六七四	八四〇六
		一九	二	三三			四
		五二七六	六九九	二〇五七〇			一九六〇
				四			
				三一三四			
		二七	五	七五	一一	五	八
		六九六七	一六六三	二三四三八	三八六七	一六八五	四九六七
		八		七	七	一	二
		二五〇二		二〇九一	九四二	三三七	九四六

○郵便電信及ビ錢道

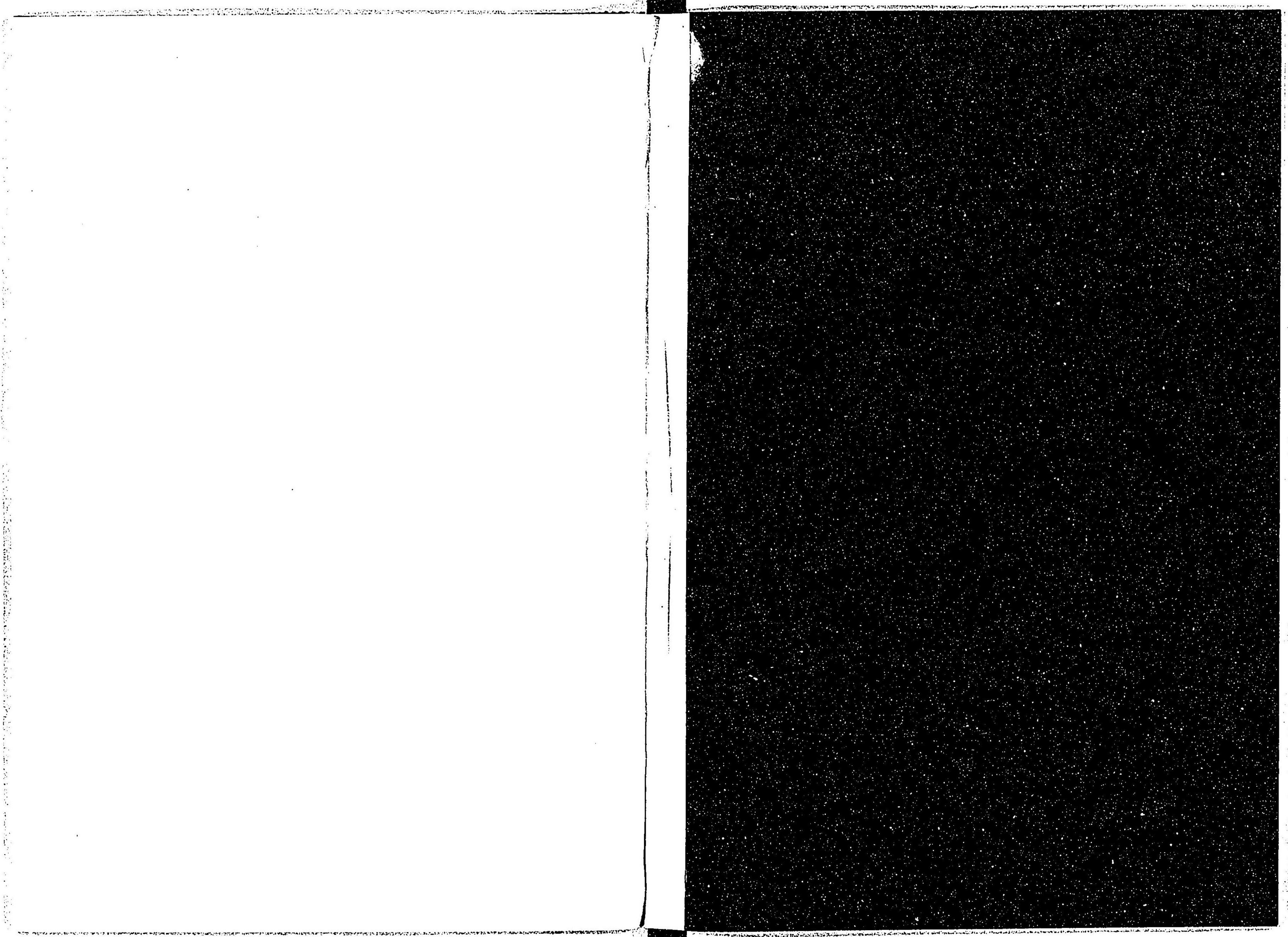
郵便		明治六年	明治七年
通	常書翰	九七二二、二九六	一六、七二八、〇二五
書	留書翰	一一四、七四二	二六八、五七七
新	聞紙	五一四、六一〇	二六、二一九、六四八
書	籍及見本	三四、九〇八	三三、八二四
無	稅書狀	九六、二四二	一七八、一〇九
金	子入書狀	六六、五〇五	九五、二三五
沒	書	二、五九九	四、〇〇五
總計		一〇、五五〇、九〇二	一九、九三七、四二三
電信		明治六年	明治七年

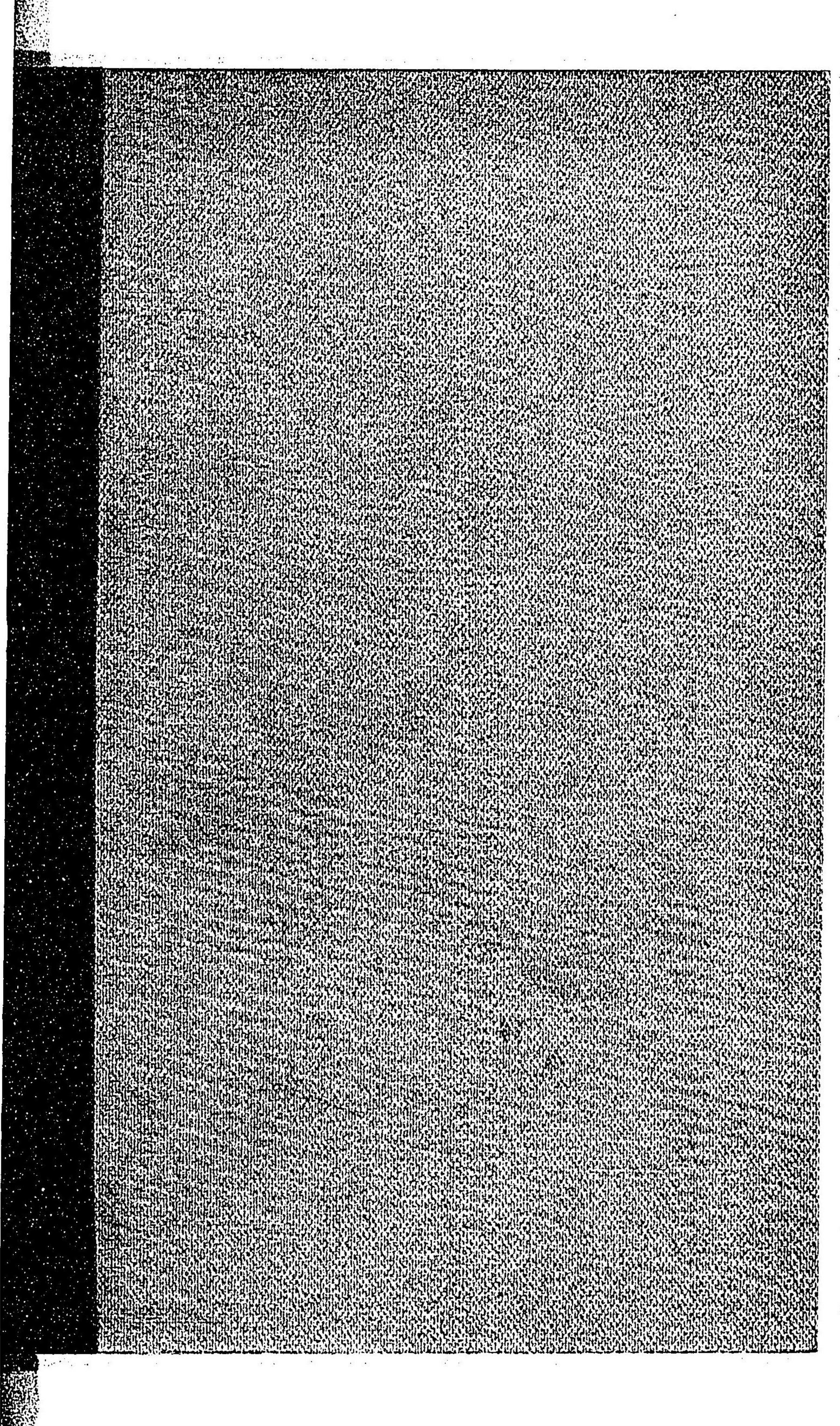
線路里程	既ニ落成セシモノト未タ落成セザルモノトヲ合ス	發信數	收金高
鐵道			
鐵路里程 (既ニ落成)	三七、九九(英里)	一、七五五(英里)	二、二六、七九六
鐵路里程 (未タ落成セズ)	二七、〇〇(英里)	三、五一六(英里)	三、九六、二八九
陸軍及海軍			一一四、五六〇

陸軍		海軍	
近衛兵員	三、九九四	艦船	二〇
鎮臺兵員	三、七八二	乘艦人員	三、七五七
第一東京、第二仙臺、第三名古屋、 第四大阪、第五廣島、第六熊本			

明治十年九月十二日出版  
全 年九月出版

內國勸業博覽會事務局





023019-000-1

特29-583

日本帝国誌略

内国勸業博覧会事務局

M10

ADB-0983

